

令和5年度 大田区立馬込東中学校 学校経営方針

大田区立馬込東中学校 校長 松井 圭一

学校の教育目標

夢と希望を持って、未来を拓く生徒を育成する

- 1 自ら学び行動する生徒の育成
- 1 健康でたくましい生徒の育成
- 1 礼儀正しく心豊かな生徒の育成

1 目指す学校像

- (1) 生徒が安心して安全に生活できる学校
- (2) 生徒・教職員が（馬込東中学校に）所属することに喜びと誇りをもてる学校
- (3) 夢の実現に向けて努力する生徒を全教職員でサポートしていく学校
- (4) 生徒一人ひとりの個性と特性を活かし、規律と活力のある学校
- (5) 地域との連携を深め、保護者・地域から信頼される学校

2 目指す生徒像

- (1) 社会変化に柔軟に対応し、未来を創造する力を身につけた生徒
- (2) 主体的に学びに向かい、自己実現に向けて努力し続ける生徒
- (3) 「知・徳・体」の調和がとれ、明朗で礼儀正しい思いやりあふれる生徒

3 中期的目標と方策

- (1) 学習指導の充実による学力向上
 - ア 研究推進委員会を中心に、生徒が主体的にタブレット学習に取り組む授業の実践および授業改善に取り組む。
 - イ GIGA スクール構想を視野に入れ、ICT 機器の効果的な活用を推進し、タブレット端末を有効活用して個別最適化した新たな学び方の実現を目指す。
 - ウ 朝の読書活動を推進し、生涯にわたって読書に親しむ態度と読解力の向上を目指す。
 - エ 自主学習ノート、各種検定試験や学習教室等とおし、基礎学力を定着させることで自信をもたせ、主体的に学ぶ生徒を育成する。
- (2) 生活指導の充実による望ましい人間関係の構築
 - ア コミュニケーションの基本である明るく元気のよい挨拶を教職員が率先垂範して行う。
 - イ 生徒の良い点を積極的に見つけ、認め、励まし、生徒の自己肯定感・自己有用感を育てる。
 - ウ 場に応じた礼儀・服装・言葉遣い等を指導し、礼儀正しい態度を身につけさせる。
 - エ 特別支援教育に関する研修を行い、全教職員で共通理解を深め、生徒の心に寄り添った継続的な指導を行う。
 - オ 望ましい人間関係の育成のため、全教職員が担任であるという意識をもち、道徳、学級活動、総合的な学習の時間、給食指導等に副担任も加わり、全体で指導に当たる組織を継続する。
 - カ 学校行事をとおして、生徒の活躍する場をつくり、教職員と生徒のふれ合いを多くして、生徒との人間関係をよりよいものにする。
- (3) 地域の組織と連携した学校運営
 - ア 学校公開や学校だよりをとおして、定期的な情報を発信し、学校に対する理解と協力を求める。

- イ ボランティア活動での体験学習、勤労・奉仕活動等を全校の教育活動として定期的に行い、生命尊重の精神や、周りの人を思いやる心、社会に奉仕する心等、心の教育を推進する。
- ウ 学校支援地域本部と連携し、地域行事等への教職員や生徒の参加・交流を推進する。

4 本年度の目標と方策

(1) 学力向上の推進

- ア 生徒一人ひとりに夢を抱かせ、目的意識をもって学習に取り組めるようサポートする。
- イ 「毎日の家庭学習～学習の仕方～」を作成・活用し、家庭における予習・復習（自主学習ノート）を定着させ、「できる・わかる喜び」を体感させて自信をもたせる。
- ウ ICT推進委員会を中心に、生徒の効果的なタブレット端末学習方法について研究する。
- エ タブレット端末を活用した学習を推進し、個別最適化した指導をとおして学力の向上を図る。
- オ 個性の伸長、個別最適化した学習指導の工夫と改善を行うため、教職員間のチームワークを大切にしながら指導を推進する。

(2) 生活指導の充実

- ア 挨拶の励行、時間の厳守、生命尊重など教員自ら率先垂範し、学校生活全般で啓発・指導していく。
- イ 子どもの心サポート月間でのメンタルヘルスチェックと、ハイパーQ Uの分析により、生徒の悩み等を早期に発見し、早期対応できるように努める。
- ウ スクールカウンセラーによる全員面接を全学年で実施し、いつでも・どこでも・だれにでも相談できる学校体制を構築する。
- エ 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組をとおして、家庭と連携し、心と体の健康づくりを推進する。
- オ 「修学旅行見送り隊」の活動をとおして、生徒が主体的に活動する場面を設定する。また、本活動を思いやりの心を育てる場の一つとする。

(3) 地域と連携した学校運営

- ア 土曜日の学校公開日を年間4回設定し、学校に対する理解を求めると共にアンケートをとおして教育活動の改善を図る。
- イ 学校支援地域本部と連携し、国際理解教育・ボランティア活動・学校美化活動を推進する。
- ウ 学校防災活動拠点校として、地域と連携した防災訓練を行い、自助・共助の心を育成する。
- エ 小学校から中学校への円滑な移行ができるよう小中一貫教育をより一層推進する。
- オ アルミ缶回収運動をとおして、地域に貢献する心と地域を愛する心を養うと共にSDGsについて考えさせ、生涯にわたり自らの手で環境を守っていく態度を身につけさせる。
- カ 生命尊重の精神や、相手の立場を思いやる心等、豊かな心をもった生徒の育成を図る。

(4) 学校自己評価を基にした教育計画の改善と充実

- ア 各教科の評価観点や方法を明確にし、計画的に実施する。
- イ 学習に対する目標を明確に示し、生徒に「何を学ぶのか」「どのようにして学ぶのか」を意識させる。
- ウ 生徒・保護者・地域教育連絡協議会からの学校評価を受けることで、教育計画の内容の改善・充実・向上に努める。

(5) 学校の教育活動全体をとおした道徳教育の推進

- ア 道徳授業地区公開講座を活用し、保護者・地域に広く道徳授業を公開し、協議会での意見交換をとおして授業改善に努める。
- イ 日々の学校生活での出来事を取り上げて考えさせ、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

(6) 教職員の資質の向上

- ア 各種学習状況調査結果に基づく授業改善推進プランを実践し、年4回の校内研修会をとおして授業力の向上を図る。
- イ 教育活動全般についての自己研鑽と、教職員相互の情報交換を活発にする。また、全ての教科で生徒がタブレット端末を有効活用した研究授業を実施する。
- ウ 可能な限り研究発表や研修会に積極的に参加し、教師としての資質向上に努める。
- エ 全教職員が教育公務員としての自覚と誇りをもって職務にあたる。
- オ 積極的に校務支援端末を活用して各種データの共有化を図るなど、様々な面で業務の効率化を推進し、ライフワークバランスを保つ。